

2 月中下旬は平年を下回る気温帯で経過しました。加えて、2 月末までに、 -10°C 以下の日を 29 回記録しています。(過去最多は平成 18 年の 39 回) 3 月上旬は、高気圧が接近し、最高気温が高い日が続いています。このまま推移すれば今年の発芽は、平年よりやや早まると予想されます。発芽・展葉等の初期の生育は、気温帯や降水量により大きく前後しますので、こまめに園地に足を運び、生育状況を確認し適期作業と防除に努めてください。

気象の経過 (観測地点：長丘)

平均 気温 $^{\circ}\text{C}$	1 月			2 月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
本 年	-3.7	-2.9	-1.4	-1.0	-2.6	-2.5
平 年	-2.7	-2.6	-2.1	-1.9	-1.1	0.4
平年差	-1.0	-0.3	0.7	0.9	-1.5	-2.1

りんご生態の観察法

- ◆ 発芽期：頂芽の先が破れ青みが現れたものを、1 樹で 2～3 認められたとき。
- ◆ 展葉期：1 樹の中で完全に開いた葉が 2～3 枚見られたとき。
- ◆ 開花期：1 樹で 1～2 花咲いたとき。
- ◆ 満開期：樹全体で頂芽花の 70～80%が開花したとき。
- ◆ 落花期：頂花芽の 70～80%が落花したとき。

りんご

- ◆ 石灰硫黄合剤とベフラン液剤の 2 体系を記載しています。下記の内容を良くお読みください。
- ◆ 休眠期の薬剤散布は、腐らん病・ハダニ類・カイガラムシ類の密度を減らすうえで重要です。この防除を徹底することで生育期の防除効果が上がります。昨年、ハダニ類の被害が多かった園では散布量は多めに設定しましょう！

品 種	場 所	平年	H22	H23	H24	H25
ふ じ	平 岡	4/2	4/1	4/13	4/12	4/1 頃
エゾノコリンゴ	(果樹試)	2/14	2/1	2/9	2/28	2/14

【発芽前の散布】

○石灰硫黄合剤体系

散布時期：発芽前 (3 月中下旬)

散布薬剤 水 8 8 リットル
 スプレーオイル 2 リットル
 石灰硫黄合剤 1 0 リットル *①、③
対象病虫害：腐らん病・ハダニ類・カイガラムシ類
10 アール当り散布量 300 リットル

【注意事項】

- ① 石灰硫黄合剤は隣接するハウスビニールに極力かからないようにする。
- ② 温暖・無風の日を選び、幹や枝を十分洗うように散布する。
- ③ 調合にあたっては、スプレーオイルを先に水に溶かし、石灰硫黄合剤を後から加えて良く攪拌しながら散布する。

散布日 月 日
散布量 リットル

【発芽前の散布】

○ベフラン液剤体系

散布時期：発芽前～発芽後 1 週間以内

散布薬剤 水 9 8 リットル
 展着剤 1 0 ml
 ベフラン液剤 1 0 0 ml
 スプレーオイル 2 リットル *①

対象病虫害：腐らん病・ハダニ類・カイガラムシ類
10 アール当り散布量 300 リットル *②

【注意事項】

- ① 調合にあたっては、ベフラン液剤を先に水に溶かし、スプレーオイルを後から加えて、よく攪拌しながら散布する。
- ② 園全体にタツプリかかるようにする。

散布日 月 日
散布量 リットル

【3 月の重点管理作業】

① 園内の SS 走行路の確保

剪定作業が遅れています。防除に支障がないようとりあえず SS 走行路の剪定枝を片付けておきましょう。

② 本年も腐らん病が蔓延しています。

早期発見・早期治療が重要です。腐らん病対策は必ず実施してください。



③ 粗皮ケズリを早急に行ってください。

- ① リンゴハダニ、カイガラムシ類が粗皮下等に越冬しています。粗皮けずりを行い薬剤が直接かかるようにする。また、昨年度カイガラムシ類の発生園は、発芽前の防除の前に金ブラシ等で削り落す作業を進めてください。
- ② 昨年発生が多かった輪紋病(いぼ皮病)の罹病樹は、必ず粗皮ケズリを行なってください。まず、輪紋病の発生源を減らすことが撲滅に向けた第一歩です！

もも・ネクタリンの防除は裏面に記載してあります。ご覧ください。

もも・ネクタリン

- ◆ 石灰硫黄合剤体系とトレノックスフロアブル体系の2体系を記載しています。下記の内容をよく読み、いずれかを選択してください。
- ◆ 花芽のふくらみや樹の水上がり状況等を良く確認し、適期防除・適期作業に努めてください。

(参考：過去3カ年の発芽日)

白 鳳	平 年	H22	H23	H24	H25
発芽日	4/1	3/31	4/11	4/8	3/30 頃



【発芽前の散布】石灰硫黄合剤体系

散布時期：発芽前（3月下旬）

散布日	月	日
散布量		リットル

散布薬剤 水 9 0 リットル
 展着剤 1 0 ml
 石灰硫黄合剤 1 0 リットル *②参照

対象病虫害：縮葉病・（せん孔細菌病）
 カイガラムシ類・（ハダニ類）

散布量：10アール当たり 300 リットル

【注意事項】

- ① カイガラムシ類の発生園は、スプレーオイル50倍を合剤散布の5～6日前までに単用散布する。
- ② 石灰硫黄合剤は隣接するハウスビニールに極力かからないようにする。
- ③ この散布が不十分な場合は、縮葉病が多発するので注意する。

【発芽前の散布】トレノックスフロアブル体系

散布時期：発芽前（3月下旬）

散布日	月	日
散布量		リットル

散布薬剤 水 9 8 リットル
 展着剤 1 0 ml
 トレノックスフロアブル 2 0 0 ml *①参照
 スプレーオイル 2 リットル *②参照

対象病虫害：縮葉病・せん孔細菌病・カイガラムシ類・ハダニ類
散布量：10アール当たり 300 リットル

【注意事項】

- ① トレノックスフロアブルに代えて、キンセツ水和剤80の1000倍（開花前まで、5回）でもよい。
- ② 調合にあたっては、トレノックスフロアブルを先に溶かし、スプレーオイルを後から加えて、よく攪拌する。
- ③ この散布が不十分な場合は、縮葉病が多発するので注意する。

【せん孔細菌病・カイガラムシ類・コスカシバ防除対策】 *必ずお読みください！

- ① カイガラムシ類の発生園は、スプレーオイルの散布と併せて、この散布の前に被害部を金ブラシ等で削り落とす作業を積極的に実施してください。
- ② せん孔細菌病発生園は、開花前にキンセツ水和剤80の1000倍（開花直前まで、5回）を特別散布する。
- ③ コスカシバの認められる園では被害部の樹脂を取り除き、もも類はガットサイドS1.5倍液（30日前、1回）を樹幹部に塗布する。また、ネクタリンはガットキラー乳剤100倍又はトラサイドA乳剤200倍を樹幹部・主枝に散布する。

【3月の重点管理作業】

摘蕾の実施・・・大玉生産のための摘蕾を。（結実の良好な白鳳・なつっこ・あかつき等は摘蕾しないと小玉になります）

着果管理の流れ

- ① 花粉のある品種の場合：摘蕾・摘花 ⇒ 荒摘果 ⇒ 仕上げ摘果 ⇒ 被袋時の見直し
- ② 花粉のない品種の場合：荒摘果 ⇒ 仕上げ摘果 ⇒ 被袋時の見直し
 - ◆ 花粉のない品種でも場所により結実が良好な場合は①に準ずる）
 - ✧ 花粉のある品種は結実がほぼ確実である。早く摘果をすすめ良い幼果をつくるとともに樹勢を保つ。花粉のない品種は結実を確認し変形のない肥大の良い果実を残す。
 - ✧ 赤宝・白鳳系・あかつき・白根白桃などは摘蕾する。
 - ✧ 川中島白桃などは、受粉樹など着果条件から摘蕾を軽くするか、しないか決定する。
 - ✧ ファンタジア・秀峰・メイグランドなどのネクタリンは、花芽が少なく果実が不揃いとなりがちなので摘蕾は控える。

摘蕾の方法

- ① 主枝・亜主枝・側枝など伸ばす枝の延長枝はすべて摘蕾し、垂れないよう強く保つ。
- ② 上向きの蕾を除く。下向き・横向きは残す。
- ③ さらに長果枝（30～50cm）および中果枝（15～30cm）の基部と先端部は除く。短果枝（5～15cm）は基部を除く。
- ④ 遅れると葉芽を欠くことになるので、葉芽が伸び出す前に実施する。

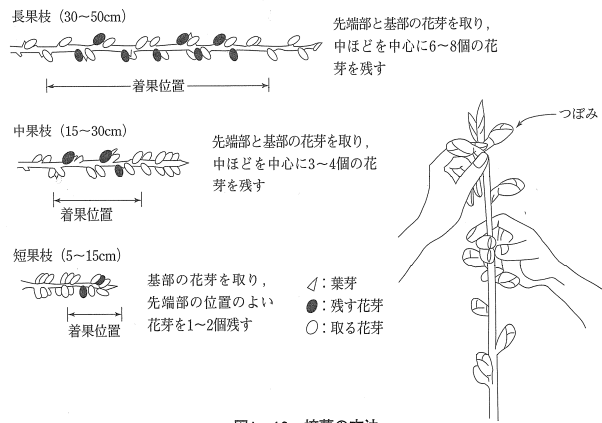


図1-10 摘蕾の方法